

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：72622

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01331

研究課題名（和文）現代新疆における少数民族の文化動態に関する研究：民族言語出版物からの検討

研究課題名（英文）Culture Dynamics of Minorities in Modern Xinjiang: Focusing on the Publication of the Minority Languages.

研究代表者

梅村 坦 (MEMURA, Hiroshi)

公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：90124289

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：日本における現代ウイグル語雑誌・図書収集の歴史を繋ぐため、今回寄贈・寄託された現代ウイグル語の雑誌・図書をスキャン保存してリスト化し、本科研メンバーで共有した。東洋文庫既存のものと同様に併せれば、世界有数のコレクションとして文献データベース構築に貢献することになる。個人研究、研究会の中で、次のような研究成果を得た。(1)中央ユーラシアを舞台にした少数民族の世俗活動の中心に、教育や教養という文化意識を見ることができる、(2)1949年以降の中国政府の新疆統治には現地への理解不足があった、(3)少数民族言語による出版物の中には、明らかに当該民族自身の主体的な文化・歴史・民俗を反映するものが存在する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

少数民族の母語による教育が極度に制限された現代新疆の少数民族言語、とくにウイグル語による出版物を収集・整理し、そのデータベース作成の準備を整えたことにより、世界の機関が保管する情報の集成に寄与する可能性を得た。

固有の民族言語によって表現された文化・思想が、当該民族集団自身が主体的に築いた歴史や精神文化の反映であることも証された。文化・思想に限らず、本科研が収集した出版物は多方面にわたっているため、より広い分野に研究が波及することが期待される。また社会的には、民族言語による出版物そのものが減少していくことも懸念されるため、本科研における雑誌・図書の集約的収集は、歴史的な意義をもつ可能性もある。

研究成果の概要（英文）：In order to connect the history of collecting modern Uyghur publications in Japan, the newly donated and deposited modern Uyghur magazines and books were scanned and saved into a list, which was shared among the members of this research group. When combined with the existing Toyo Bunko collection, it will contribute to the construction of a literature database as one of the world's leading collections.

The following research results were obtained during the study group and international workshop. (1) The cultural consciousness of education and culture can be seen at the center of the secular activities of ethnic minorities in Central Eurasia, (2) the Chinese government's administration of Xinjiang since 1949 has been characterized by a lack of understanding of the local situation, and (3) some publications in ethnic minority languages clearly reflect the culture, history, and folk customs of the ethnic groups themselves.

研究分野：中央ユーラシア史

キーワード：新疆ウイグル自治区 出版文化 現代ウイグル語文献 少数民族

## 1. 研究開始当初の背景

1970年代末から1980年代を通じ1990年代初めにいたるまで、中国の新疆ウイグル自治区は諸外国との人・図書・情報の交流が比較的穏やかに推移して、日本の研究者による現地調査も研究資料(文献)収集も蓄積を重ねていた。それ以後、中国当局の少数民族言語文化に関する政策が厳しくなり、現地の出版物の動向や、研究者自身にもその影響が強まった。2010年代に入ると、少数民族文化が危機的状況に陥っていると言っても過言ではない環境が生じ始めた。こうした状況を、近代以降とりわけ中華人民共和国期における少数民族文化の変容の潮流のなかに捉え直して、とくに研究の立ち遅れてきたウイグル人の創作活動の実態と意識、思想の動態を明らかにする必要性が高まっていた。

## 2. 研究の目的(以下の文章中「ウイグル」には一部「カザフ」を含む)

中国の新疆ウイグル自治区における主要な少数民族であるウイグル人に注目し、彼らの固有言語である現代ウイグル語による文献を利用し、文字文化を中心とする様々な知的活動に焦点をあてることを通じて、中華人民共和国期における彼らの「民族文化」の存在態様とその変容について検討する。

具体的な目的としては、(1)公益財団法人東洋文庫所蔵の現代ウイグル語文献を再整理したうえで、その充実を図るとともに、重要部分のデータベース化を実現する。(2)現代新疆に特有な民族政策の変遷や社会変動の下におけるウイグル人の民族言語・文字による様々な創作活動・翻訳活動の実態を把握する。(3)さらに、民族語諸文献の内容を分析することにより、とくにウイグル人を中心とする少数民族の意識面・思想面の傾向を探ることによって、民族文化動態の深層に迫る。

## 3. 研究の方法(以下の文章中「ウイグル」には一部「カザフ」を含む)

(1)文献研究の環境整備:目下、新疆で出版された少数民族言語文献の収集(購入)はきわめて不自由である。しかし東洋文庫には、研究代表者をはじめとする研究者たちが新疆の出版社より直接購入した文献を主体とする現代ウイグル語文献が所蔵されており、日本の研究機関・図書館等の中で、数量および内容の多様さにおいて突出したコレクションを誇る。その活用環境を整えて拡充するため、これらの文献について不十分な文献リストしか存在しない現状に鑑み、再カタログ化作業を実施する。現代ウイグル語のローマ字転写方式の採用に際しては、国際的な図書検索システムとの統一を図る。また上記の作業と並行しながら、新疆現地で日本人研究者個人が収集し、所蔵している現代ウイグル語文献を本プロジェクトに寄贈するよう依頼し、東洋文庫におけるコレクションの充実を図る。

(2)データの共有化:上記(1)の新たな諸文献を中心に、とくに歴史・文化・思想面の著作・論文等の重要部分については、順次スキャン作業を行って画像データ(PDF)を作成し、当方は研究材料としてメンバーの間で共有化し、個々の研究活用に供する。

(3)文化動態の背景に関する検討:現代中国における政治変動と基本的な民族政策の相関を把握する一方、新疆における民族政策実施の具体相とその変遷、およびそれによって引き起こされる社会変動を、国際環境との関係を見据えながら系統的に理解する。

(4)文化活動の実態把握:中国の民族政策が実施される状況下において、ともすると一方的に翻弄されるかにみえるウイグル人の民族言語・文字による様々な創作活動ひいては社会活動の実態を把握する。

## 4. 研究成果

新型コロナウイルスの影響による国内移動制限及び海外渡航不能という状況(2020年から2023年前半)に鑑みて、毎年度の打合せ例会も、研究会もオンライン開催を基本とせざるをえなかった。またそのため、新疆を中心とする中央アジア地域および中華人民共和国各地における最新のウイグル文化事情に関する現地調査については、当初の目論見から基本的にはずすこととせざるを得なかった。

以下、上記3の(1)から(4)に即して述べることにする。

(1)文献研究の環境整備すなわち、現代ウイグル語出版物のデータ収集と整理の成果:

日本における現代ウイグル語雑誌・図書収集の歴史を1970年代まで遡って整理することによって、本プロジェクトの基礎的な由来を確認した。本科研以前の段階においてもたらされた図書・雑誌はすでに東洋文庫に収蔵され原則として公開されている。また、本科研の事業として、本科研のメンバーを中心とする国内の研究者個人が収集した雑誌30種700冊、図書870冊が、東洋文庫への寄贈用として、ないしは科学研究のための寄託として、本科研に提供された。東洋文庫が既に所有しているものに当該寄贈予定図書・雑誌を加えると、単行本のみでも2,000冊を超える世界有数のコレクションとなる予定である。整理にあたっては、東洋文庫図書部との連携のもとで図書登録のマニュアルを検討した結果、将来においては東洋文庫のみならず CiNii 方式とも連携できる余地を持つ方法をもってデータベース作成を進めた。また、提供された図書・雑誌については、とくに歴史・文化分野を中心に重要な部分のスキャン保存を行い、そのデ

ータを科研メンバーで共有することにより研究のための新規材料として活用した。

なお、収集した図書や雑誌論文・記事の中には中国語・ロシア語などからウイグル語に翻訳された作品が少なくない。これは「翻訳作業を通しての、ウイグル人による様々な「外来」思想の「受容」と適用」という観点から今後あらためて分析研究していく価値がある。

(2) データの共有化の成果：

科研に提供された雑誌と図書について、東洋文庫への寄贈に備えて書誌データの記録・統一作業を行った。また、それらのスキャン・データは本科研の研究分担者・研究協力者の間で共有して各自の研究資料とした。

(3) 文化動態の背景に関する検討の成果：

イスラーム化以降をみれば、テュルク系民族集団が居住する新疆地域の地政学的な位置は、東方の「中国文化圏」、北方の「遊牧文化圏」および「ロシア・ソ連文化圏」、西方の「イランならびにテュルク文化圏」が交錯するところにある。

そうしたことから、現代において「大中央アジア」(GCA) という概念で国際関係上の理論的研究をまとめる試みをおこなった。

清朝まで遡る「中国文化圏」の歴史の観点からは、満洲(清朝)・中国(中華民国・中華人民共和国)が新疆を支配した局面は非常に多く研究されてきたところであるが、本科研では新たな研究動向を拓く観点も導き出された。すなわち、中華人民共和国になってからの民族区域自治政策の下においても新疆統治については中央政府の影響が巨大な力を有したことが、統治幹部の人事政策に関する詳細な研究からあきらかになった。現地の現実社会からみると、1949年当時から、統治にあたる幹部と彼らが実施する政策が、ともすると現地住民の言語や宗教生活の伝統に対する理解不足を背景として、結局少数民族語教育から漢語教育への切り替えが断行されたり、イスラーム信仰への制約が強化されたりする下地となったのではない。

ただ、「民族区域自治」の原則そのものは温存され、また少し古くは費孝通の「中華民族多元一体構造論」によって少数民族が議論の対象として居場所をもったかに見える。中央政権の思惑は、そうした原則を動かさずに統治方針の幅をもたせようとするものではないか、とも評される。これらの議論に関しては、「社会主義化等の社会変動と政治的枠組の下における民族意識の模索と表現」、「漢化」や経済発展の趨勢を踏まえた、社会に対する認識・評価」といった分析視角をもって、さらに研究を深める余地があろう。

(4) 文化活動の実態把握の成果：

成果の一例を挙げる。グルジャ出身で記録を辿ることのできるタタール人一族がロシア(ソ連)トルコを股に掛けて活動しながら、結局のところ1944年の東トルキスタン共和国臨時政府の教育長官を出すなど、通商・教育・慈善・新聞・印刷・政治などで広く積極的に活動した事例などは、少数民族の世俗的な動向とその中心にある文化意識・教養とが合致した典型的な例であろう。このような事例は今後も掘りだされるであろう。

つぎの例。ウイグル語雑誌『ブラク(源泉)』は、本科研の収集によってほぼ全バックナンバーがそろい、分析研究対象としての価値をもった。1980年創刊のこの雑誌は、改革開放後の「寛容な」政策を背景にウイグル人社会において展開した民族文化「復興」運動との強いつながりの下に創刊されたものであり、古代から20世紀へと至る系統的な文学史の枠組みに基づきウイグル古典文学作品の紹介・研究成果を提示してきた。その背後には、ウイグル社会に対して自民族の古典文学・歴史文化に関する知識の浸透と理解の進化を促すウイグル知識人たちの意図が窺われる。少数民族言語による出版物は、確かに当該民族自身の主体的な意思に基づく文化的活動の所産であり、その文化・歴史・民俗を反映するものだったのである。

付言すれば、本科研も共催した国際ワークショップのなかでも、清朝による新疆統治組織の実態、清朝以降の中国商人とイスラームとの関連、中華人民共和国成立後の亡命者による詩文、文革期のアルタイ地区における階級解消など、様々な文献と異なる視点から新疆の文化的・社会的動態についての英・米の若手研究者による新しい研究成果が披瀝され、情報を交換することができた。

さらに付言すれば、研究会のなかで、中国ムスリム知識人と現代中国思想(毛沢東)との関わりや、中国ムスリムの出版事情など、新疆以外の地域におけるイスラーム文化を含めて、「新疆におけるイスラーム意識の様相と変容」の議論に欠かせない視点を獲得した。また、かつての内モンゴルの政治指導者ウランフをまはや「文化遺産」と見做すことについて、「民族意識を裏打ちする歴史認識の様態」の一例として知見を得たことは有益であった。

以上、本プロジェクトにおける調査、作業、研究は、第一に研究資料としての文献の収集と保存を土台に据えてその公開を目指す目的をほぼ達成することができた。第二に、少数民族ウイグルの文化動態と歴史認識を明らかにするための幾つかの視角(下線部)を得て、次の段階へ進むとば口に立てたものと考えらる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 新免 康	4. 巻 64 (3)
2. 論文標題 近代史の文脈からみた現代新疆の少数民族政治エリート：熊倉潤著『民族自決と民族団結 - ソ連と中国の民族エリート』(東京大学出版会、2020年)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 61-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新免 康、小沼孝博	4. 巻 15
2. 論文標題 1871年阿古柏伯克与清朝交渉始末	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジア流域文化研究 (東北学院大学アジア流域文化研究所)	6. 最初と最後の頁 101-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小沼孝博	4. 巻 69/70
2. 論文標題 20世紀前半のグルジャにおけるユヌチ家の活動	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東北学院大学論集 歴史と文化	6. 最初と最後の頁 215-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中 周	4. 巻 -
2. 論文標題 GCAをめぐる中国の反テロ戦略：アフガニスタンを事例として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 川島真・鈴木絢女・小泉悠編著『ユーラシアの自画像』PHP研究所	6. 最初と最後の頁 371-388
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Amane Tanaka & Maria Tanaka	4. 巻 2
2. 論文標題 China's Security Engagement with Greater Central Asia (GCA): The Case of Afghanistan.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Roles Review	6. 最初と最後の頁 21-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中 周	4. 巻 63-2
2. 論文標題 書評：澤井充生著『現代中国における「イスラーム復興」の民族誌：変貌するジャマアの伝統秩序と民族自治』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 70-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小沼孝博 (那日蘇訳)	4. 巻 8
2. 論文標題 清代乾隆朝扎哈沁之動態	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Oyirad Studies / 衛拉特研究	6. 最初と最後の頁 8-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Onuma Takahiro	4. 巻 19
2. 論文標題 Manchu Words Referring to the Qing Emperor: han and ejen	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Saksaha: A Journal of Manchu Studies	6. 最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小沼孝博	4. 巻 119
2. 論文標題 ムッラー・ムサー・サイラーミーの史的探求：『ハミード史』序論の検討から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 野田仁編『近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照』（Studia Culturae Islamicae）	6. 最初と最後の頁 71-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 新免 康	4. 巻 47
2. 論文標題 中国新疆における「文人」としての「少数民族」政治エリート：セイビディン・エズィズィを例として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中央大学アジア史研究	6. 最初と最後の頁 51-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海野 典子	4. 巻 1027
2. 論文標題 清末民初期の北京における食・衛生・宗教：中国ムスリムの「清真」意識とハラール問題への対応	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海野典子	4. 巻 1
2. 論文標題 日本人が見た中華民国期北京のムスリム社会－雑誌『回教』と画集『回回風俗図』を手がかりとして－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小野亮介・海野典子編『近代日本と中東・イスラーム圏：ヒト・モノ・情報の交錯から見る』	6. 最初と最後の頁 385 ( 327-364)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小沼孝博	4. 巻 143
2. 論文標題 ムザルト峠を越えて 天山南北交通史序説	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東方学	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小沼孝博	4. 巻 65/66合併号
2. 論文標題 795年におけるコーカンド使節と清の交渉 清代カシュガリアの政治・外交空間	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東北学院大学論集歴史と文化	6. 最初と最後の頁 31-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新免康	4. 巻 24
2. 論文標題 19～20世紀の南新疆に関わるウイグル族の歴史歌謡について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央大学政策文化総合研究所年報	6. 最初と最後の頁 145-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新免康	4. 巻 1
2. 論文標題 19世紀後半～20世紀前半におけるウイグル族社会の呪術師バフシに関する資料	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 松本悠子、三浦麻子編『歴史の中の個と共同体』	6. 最初と最後の頁 151-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新免康	4. 巻 46
2. 論文標題 19世紀後半の南新疆に関する一資料：N. パントゥソフによって記録された民間歌謡の紹介	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア史研究	6. 最初と最後の頁 (1-30)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中周	4. 巻 6
2. 論文標題 中国の対アフガニスタン外交：5つの地域枠組み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ROLES COMMENTARY	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中周	4. 巻 1
2. 論文標題 新疆・ウイグル族をめぐる諸問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ROLES COMMENTARY	6. 最初と最後の頁 195-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 小沼孝博
2. 発表標題 清朝の対中央アジア国書に関する基礎的研究：テュルク語文面とその作成者たち
3. 学会等名 2022年度明清史夏合宿（招待講演）
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 小沼孝博
2. 発表標題 乾隆四十二年扎哈沁旗再編
3. 学会等名 滿文文献与清史研究國際學術研討會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小沼孝博
2. 発表標題 滿文中用以指代清朝皇帝的兩個詞：han（汗）、ejen（厄真）
3. 学会等名 中央研究院歷史語言研究所專題講演（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小沼孝博
2. 発表標題 1871年清朝與阿古柏伯克交涉始末
3. 学会等名 中央研究院近代史研究所西学與中国研究群午餐講演（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 海野 典子
2. 発表標題 清末天津における交通問題と回民社会：劉孟揚の活動を中心に
3. 学会等名 中国ムスリム研究会第39回定例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Noriko UNNO
2. 発表標題 Multicultural Sustainability” in East Asia: Focusing on the Historical Experiences of Muslims in China
3. 学会等名 WIAS (Waseda Institute for Advanced Study) 15th Anniversary Symposium “Well-being in the time of uncertainty.”
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Noriko UNNO
2. 発表標題 Sino-Muslims and the Ottoman Empire in Early 20th-century China
3. 学会等名 The International Symposium of Minpaku (National Museum of Ethnology) Special Project “Global Area Studies: Towards a New Epistemology for Mapping the Globalizing World.”
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小沼孝博
2. 発表標題 回回館から回子官学へ：清朝宮廷におけるアラビア文字言語の訳員養成
3. 学会等名 中国ムスリム研究会20周年記念大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小沼孝博
2. 発表標題 新疆オアシスの農村・水利・行政
3. 学会等名 第5回比較水利史研究会，東北学院サテライトステーション（ハイブリッド形式）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小沼孝博
2. 発表標題 ムッラー・ムーサー・サイラーミーの史的探求：『ハミード史』序論の検討から
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照」2021年度第2回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小沼孝博
2. 発表標題 『清代回疆社会経済史研究』の出版とその意義
3. 学会等名 日本中央アジア学会2021年度年次大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 熊倉 潤	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 272
3. 書名 新疆ウイグル自治区	

1. 著者名 熊倉 潤	4. 発行年 2023年
2. 出版社 八旗文化	5. 総ページ数 270
3. 書名 新疆—被中共支配の七十年	

1. 著者名 H. Umemura et al. eds.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Toyo Bunko & IOM, RAS	5. 総ページ数 426
3. 書名 Catalogue of the Old Uyghur Manuscripts and Blockprints in the Serindia Collection of the Institute of Oriental Manuscripts, RAS, Volume 1	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新免 康  (SHINMEN Yasushi)  (10235781)	公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員   (72622)	
研究分担者	田中 周  (TANAKA Amane)  (10579072)	東京大学・先端科学技術研究センター・特任研究員   (12601)	
研究分担者	小沼 孝博  (ONUMA Takahiro)  (30509378)	東北学院大学・文学部・教授   (31302)	
研究分担者	海野 典子  (UNNO Noriko)  (30815759)	早稲田大学・国際学術院(アジア太平洋研究科)・講師(任期付)   (32689)	
研究分担者	熊倉 潤  (KUMAKURA Jun)  (60826105)	法政大学・法学部・教授   (32675)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	澤田 稔  (SAWADA Minoru)		
研究協力者	清水 由里子  (SHIMIZU Yukiko)		
研究協力者	野田 仁  (NODA Jin)		
研究協力者	濱田 正美  (HAMADA Masami)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 共催：中国ムスリム研究会「国際ワークショップ：回族・新疆・ウイグル」	開催年 2023年～2023年
--	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------